

川崎北部の 1.9 ha の保全緑地で 2010 年代前半に確認された 50 種の蝶類

Fifty butterfly species were observed at a small conserved green area in northern Kawasaki in early 2010's

鎌倉 正人*

Masato Hinakura

*特定非営利活動法人かわさき自然調査団 昆虫班

Insects Research Group, Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

はじめに

筆者は、2010 年から 2015 年にかけて、川崎市麻生区の市街化区域内（上麻生 7 丁目）に新たに誕生した川崎市の保全緑地「柿生の里特別緑地保全地区」の里山管理に関わり、草本や樹木の調査・地域の自然学習などを活動の一環として行った。筆者本来の専門である昆虫については、目視による調査を断片的に行ったにとどまったが、特に蝶類については、記録種がかなり充実した。麻生区の蝶については、黒川や早野など広い林分のある地域を除くと、最近の記録は多くない。しかも、今回の未発表データ中には、最近の川崎市内では稀で、都市において貴重な記録が含まれている。そこで、本報告では、この緑地の立地と環境についても紹介し、蝶相とあわせて考察を加えることにする。

調査方法

基本的に目視と撮影によって記録した。蝶の記録は 2011 年のみ全種の野帳があるが、それ以降は、撮影種や前年に確認できなかった種を追加する形となっている。あくまで、作業や打ち合わせ、希少種を含む特徴的な植物の面的調査、あるいは広報・勉強会・イベントで使う撮影の片手間に行った記録であり、昆虫調査に専念して年間まんべんなく調べたものでないことをお断りしておく。

麻生区とその近隣地域の近年の蝶の記録の比較検討資料として、CD-ROM 版創立 25 周年記念「神奈川の蝶・データ集 II」（相模の蝶を語る会、2011）を用いた。

調査結果

データを記す前に、当地の環境について述べる。調査地域は、花見の名所・独特の石像で有名な浄慶寺に隣接し、丘陵地の南斜面にある。かつての私邸の庭園の周囲が、雑木林や竹・ヒノキの林に囲まれ、多様な環境を呈しており、隣接して追っこし山ふれあいの森・源内谷南公園・民有地の樹林地などが続いている。尾根筋は UR 麻生台団地と柿生中学校・柿生駅を結ぶ生活徒歩道路であり、人の往来が盛んである。本稿執筆時点では閉鎖管理であり、筆者も副代表を務める柿生の里クラブが、草刈りや間伐を含む樹林・庭園等の手入れを行っている。市が買い取る以前には、永年斜面樹林に侵入したモウソウチクが放置され、樹木が衰弱し始めていた。2010 年から 2011 年の冬場を中心に竹の除伐が行われ、それ以後、林床植生の生育状況を見ながら樹林・園地の手入れが行われた。現在では、当初にはなかったコナラ・クヌギの実生が多数認められる状況になっている。

以下に観察記録を分類順に記す。○は写真があることを示す。産地はすべて川崎市麻生区上麻生柿生の里特別緑地保全地区、目撃・撮影者はすべて筆者なので省略した。アカボシゴマダラおよびミドリヒョウモン各 1 例を除き、記録はすべて成虫である。学名や配列は、日本産蝶類標準図鑑（白水、2006）に従った。確認例の多い種は普通に見られる種であることが、この結果から読み取れる。

アゲハチョウ科 Papilionidae

ジャコウアゲハ *Byasa alcinous alcinous* (Klug)

1♂, 15-VIII-2013○.

当地には食草のウマノズクサが見当たらなかったため、周辺から飛んできた個体と思われる。

アオスジアゲハ *Graphium sarpedon nipponum* (Fruhstorfer)

1 頭, 2-VII-2011; 1 頭, 16-VII-2011; 1 頭, 7-VIII-2011.

ナミアゲハ *Papilio xuthus xuthus* Linnaeus

1 頭, 6-IV-2011; 1 頭, 16-IV-2011; 1 頭, 4-V-2011; 1 頭, 21-V-2011; 2 頭, 7-VIII-2011; 1 頭, 7-IX-2011.

キアゲハ *Papilio machaon hippocrates* C. et R. Felder

1 頭, 29-III-2011; 3 頭, 7-VIII-2011.

当地には田圃やはっきりした湿地環境はないが、谷底部分に本種が好むセリが自生している。

ナガサキアゲハ *Papilio memnon thunbergii* von Siebold

1 頭, 21-V-2011; 2 頭, 16-VII-2011; 1 頭, 7-VIII-2011; 1 頭, 7-IX-2011; 1 ♀, 30-VIII-2014○.

庭園内に柑橘類が植栽されているためか、比較的飛来が多い。北上種であるが、現在においては最も普通の黒色アゲハ類となっている。

モンキアゲハ *Papilio helenus nicconicolens* Butler

1 頭, 14-VI-2011.

クロアゲハ *Papilio protenor demetrius* Stoll

1 頭, 30-V-2011.

カラスアゲハ *Papilio dehaanii dehaanii* C. et R. Felder

1 頭, 16-VII-2011; 1 ♂, 1-VIII-2015○.

シロチョウ科 Pieridae

ツマキチョウ *Anthocharis scolymus scolymus* Butler

1 頭, 11-IV-2011; 1 頭, 16-IV-2011; 1 頭, 4-V-2011.

本種はどちらかといえば里山の湿っぽい環境を好む蝶である。

モンシロチョウ *Pieris rapae crucivora* Boisduval

2 頭, 2-VII-2011.

スジグロシロチョウ *Pieris melete melete* Ménétrières, 1857

2 頭, 6-IV-2011; 3 頭, 11-IV-2011; 2 頭, 16-IV-2011; 1 頭, 4-V-2011; 1 頭, 14-VI-2011; 2 頭, 16-VII-2011; 1 頭, 7-VIII-2011.

キタキチョウ *Eurema mandarina* (de l'Orza)

3 頭, 6-IV-2011; 3 頭, 11-IV-2011; 3 頭, 16-IV-2011; 1 頭, 4-V-2011; 1 頭, 21-V-2011; 1 頭, 30-V-2011; 1 頭, 14-VI-2011; 1 頭, 16-VII-2011; 5 頭, 7-VIII-2011; 4 頭, 7-IX-2011; 2 頭, 7-X-2011.

モンキチョウ *Colias erate poliographus* Motschulsky

1 頭, 7-VIII-2011○.

シジミチョウ科 Lycaenidae

ウラギンシジミ *Curetis acuta paracuta* de Niceville

3 頭, 7-X-2011; 1 ♂, 7-XI-2012○.

ムラサキシジミ *Narathura japonica japonica* (Murray)

1 頭, 19-III-2011; 1 頭, 11-IV-2011; 1 頭, 16-IV-2011; 1 頭, 30-V-2011; 2 頭, 7-VIII-2011.

斜面には、落葉樹のほか、本種が好むカシ類もかなり自生している。越冬後の個体を見ることが多い。

ムラサキツバメ *Narathura bazalus turbata* (Butler)

1 ♀, 7-XI-2012○.

当地には食樹のマテバシイがないが、近隣の UR 麻生台団地には植栽がみられる。

ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata saepestriata* (Hewitson)

1 頭, 8-VII-2013○; 1 頭, 20-VI-2015○.

麻生区中心街付近の記録は乏しい。クヌギを好む種で、雑木林復活の兆しであれば喜ばしいことである。

ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia attilia* (Bremer)

1 頭, 8-VI-2012; 1 頭, 5-VI-2013○.

2011 年はかなり注意したにもかかわらず確認できなかった。

コツバメ *Callophrys ferrea* (Butler)

1 頭, 19-III-2013○; 1 ♂, 31-III-2014○.

庭園内にツツジが植栽されており、これを食樹として利用している可能性が高い。盆栽状に手入れされた松の枝先にテリトリーを張る行動を、2 春連続して観察している。川崎市内では少ない種である。

トラフシジミ *Rapala arata* (Bremer)

1 頭, 25-IV-2011○.

道沿いの流れで吸水していた。川崎市内では少ない種である。

ベニシジミ *Lycaena phlaeas daimio* (Matsumura)

1 頭, 7-IX-2011.

ヤマトシジミ *Zizeeria maha argia* (Ménétrières)

1 頭, 30-V-2011; 1 頭, 2-VII-2011; 5 頭, 7-VIII-2011○; 3 頭, 7-IX-2011; 5 頭, 7-X-2011; 3 頭, 23-XI-2011.

ツバメシジミ *Everes argiades argiades* (Pallas)

1 頭, 7-VIII-2011○; 1 頭, 7-X-2011.

ルリシジミ *Celastrina argiolus ladonides* (de l'Orza)

1 頭, 16-IV-2011; 1 頭, 2-VI-2012○.

ウラナミシジミ *Lampides boeticus* (Fabricius)

1 頭, 7-X-2011.

タテハチョウ科 Nymphaliidae

テングチョウ *Libythea celtis celtoides* Fruhstorfer

1 頭, 16-III-2013○.

ヒメアカタテハ *Vanessa cardui cardui* (Linnaeus)

1 頭, 19-III-2011, 1 頭, 16-VII-2011.

アカタテハ *Vanessa indica indica* (Herbst)

1 頭, 5-IV-2014○.

キタテハ *Polygonia c-aureum c-aureum* (Linnaeus)

1 頭, 23-XI-2011.

ルリタテハ *Kaniska canace nojaponicum* (von Siebold)

1 頭, 29-III-2011; 1 頭, 7-X-2011; 1 頭, 4-IV-2012○.

ミドリヒョウモン *Argynnis paphia tsushimana* Fruhstorfer

2 ♀, 21-IX-2013○; 1 ♂, 1-VI-2014; 1 幼虫, 6-V-2015○.

2013 年に初めてヒヨドリバナに吸蜜に来ている個体を撮影し, 同日, 庭園木に産卵している個体を目撃した. 平地や丘陵地では, 秋季に確認の多い種であるが, 翌年初夏に目撃された個体は新鮮で, 当地かその近傍で羽化した可能性が高い. さらに幼虫も確認できたので, 細々と世代を繰り返している可能性がある. 最近多摩丘陵とその周辺で確認例が増えている種である (丸山, 2015; 次田, 2015).

ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius hyperbius* (Linnaeus)

1 頭, 21-V-2011; 1 ♀, 7-VIII-2011○; 2 頭, 7-X-2011.

コムスジ *Neptis sappho intermedia* W. B. Pryer

1 頭, 25-IV-2011; 2 頭, 4-V-2011; 1 頭, 21-V-2011; 2 頭, 30-V-2011; 3 頭, 16-VII-2011; 4 頭, 7-VIII-2011○; 3 頭, 7-X-2011.

イチモンジチョウ *Ladoga camilla japonica* (Ménétrières)

1 頭, 20-VI-2012.

アカボシゴマダラ *Hestina assimilis assimilis* (Linnaeus)

1 頭, 21-V-2011; 1 幼虫, 14-IV-2013○.

外来種. 当地には食樹のエノキが乏しく, 大木は 1 本しかないが, 幼虫はその下の実生で見出された.

ゴマダラチョウ *Hestina japonica* (C. et R. Felder)

1 頭, 21-VII-2013.

ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus argus* Butler

1 頭, 29-IV-2011; 2 頭, 4-V-2011; 1 頭, 21-V-2011; 4 頭, 30-V-2011; 1 頭, 7-VIII-2011; 2 頭, 7-IX-2011; 1 頭, 7-X-2011.

コジャノメ *Mycalesis francisca perdiccas* Hewitson

2 頭, 21-V-2011; 1 頭, 26-V-2012○.

ヒメジャノメ *Mycalesis gotama fulginia* Fruhstorfer

2 頭, 7-X-2011○.

クロコノマチョウ *Melanitis phedima oitensis* Matsumura

1 頭, 29-IV-2011.

クロヒカゲ *Lethe diana diana* (Butler)

2 頭, 4-V-2011; 4 頭, 21-V-2011; 2 頭, 30-V-2011○; 4 頭, 2-VII-2011○; 8 頭, 16-VII-2011; 4 頭, 7-VIII-2011; 3 頭, 7-X-2011.

タケやササの多い当地では普通である。

ヒカゲチョウ *Lethe sicelis* (Hewitson)

1 頭, 2-VII-2011○; 1 頭, 7-IX-2011; 1 頭, 7-X-2011.

サトキマダラヒカゲ *Neope goschkevitschii* (Ménétrières)

1 頭, 21-V-2011; 2 頭, 7-VIII-2011; 1 頭, 7-IX-2011.

セセリチョウ科 Hesperiidae

ダイミョウセセリ *Daimio tethys* (Ménétrières)

1 頭, 30-V-2011; 1 頭, 7-VIII-2011.

コチャバネセセリ *Thoressa varia* (Murray)

1 頭, 4-V-2011; 1 頭, 30-V-2011.

ヒメキマダラセセリ *Ochlodes ochraceus* (Bremer)

1 頭, 7-VIII-2011○.

本種だけは 2012 年以降確認できていない。下草刈りが進みすぎて消滅したかもしれないと懸念される。市内では分布がほぼ麻生区に限られる。

キマダラセセリ *Potanthus flavus flavus* (Murray)

1 頭, 15-VIII-2013○.

オオチャバネセセリ *Polytremis pellucida pellucida* (Murray)

1 頭, 3-IX-2014.

昨今の川崎北部周辺では、多く見られるのは近くに谷戸湿地がある所に限られている。庭園内にて作業中、多数のイチモンジセセリに混じって見出されたが、撮影できなかった。

チャバネセセリ *Pelopidas mathias oberthueri* Evans

1 頭, 7-X-2011○.

イチモンジセセリ *Parnara guttata guttata* (Bremer et Grey)

1 頭, 30-V-2011; 1 頭, 7-IX-2011; 5 頭, 7-X-2011.

考察

「神奈川の蝶・データ集 II」(相模の蝶を語る会, 2011) は、主に 2003 年から 2011 年にかけての神奈川県とその近隣地域の蝶の記録を集積したものであり、川崎市麻生区からは 69 種が記録されている。大部分は里山環境が広範囲に残されている黒川と早野の記録であり、市街地内の小規模緑地の記録は少ない。

当地で記録された 50 種は、これらの 7 割を占め、これらの記録は、分断化された都市緑地の現状を考えるための材料として意義のあるものと考えられる。特に、コツバメ (図1) やミドリヒョウモン (図2) など、良好な里山林に見られる種が複数年にわたり確認されていることは、緑地の質の高さを物語るもので興味深い。本報告によって、麻生区の柿生地域に、多摩丘陵に生息する蝶のかなりの種が今なお健在であることが明らかになった。当地に最も近いまとまった林分は、鶴見川の対岸にある横浜市寺家から町田市三輪にかけての里山であり、ここには現在の麻生区で確認できるほとんどの種が近年も記録されている (相模の蝶を語る会, 2011)。種類によっては飛来可能な距離であるが、それほど遠くない時代 (1970 年代頃) までは対岸に類似した環境もあったと思われ、注目されることもなく世代を繰り返してきた種もあると考えられる。

前述の 69 種のうち、当地で記録がない種は以下のとおりである。オナガアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、ツマグロキチョウ (これのみ 1970 年代の記録)、ゴイシジミ、ウラゴマダラシジミ、アカシジミ、オオミドリシジミ、ミドリシジミ、オオウラギンスジヒョウモン、メスグロヒョウモン、スミナガシ、ミスジチョウ、ヒオドシチョウ、オオムラサキ、ジャノメチョウ、アサギマダラ、アオバセセリ、ミヤマセセリ、ミヤマチャバネセセリ。これらには、ハンノキ林に発生するミドリシジミのように生息環境が当地やその近傍に無い種や、オオムラサキのように広い里山環境を要求するであろう種も含まれる。しかし、当地に近い筆者自宅の近傍 (上麻生 6 丁目) ではアカシジミやメスグロヒョウモンが、隣接の追っこし山ではヒオドシチョウが撮影されており (未発表)、それぞれ幼虫の餌となるコナラ・スミレ類・エノキは存在するので、こうした種は記録が追加されうるものである。

当地は、南向き斜面に位置し中央が庭園であり、特に春から夏にかけてはさまざまな花が咲く。雑木林に樹液の出る木は少ないが、植栽されている柿などの果実が発酵し、時季によって一部の種には成虫の餌

として機能している。そこで、隣接の社寺林や残存緑地で発生した成虫が、飛来あるいは吸蜜に訪れる場合も少なくないと考えられる。幼虫の餌植物が敷地内にないジャコウアゲハやムラサキツバメは、周辺から飛んできたと考えられる。また、1.9 ha の孤立緑地では50 種もの種数は維持できず、周辺に自然度の高い緑地が連続していることの効果が大きいとも考えられる。

最後に別の視点から、里山管理において蝶などの昆虫を記録することの意義について述べておきたい。一定の場所の人為作業の影響をモニタリングするうえで、動かない生き物である植物の面的調査は不可欠である。植物の記録は、作業や工事と同様、図面上の定位置に表記できるからである。一方、蝶相というのは別の観点から、該地域の近隣を含めた自然の豊かさや種の供給源を示すのに、有用なものとする。

筆者はここ 10 年ほど川崎北部に住み、公園や農地・河川近傍の自然を広く観察し、調査だけでなく樹林地の保全活動や地域の交流会等のイベントにも関わってきた。昨今、沢山の公共緑地を管理する熱心な市民団体がそれぞれ存在し、一頃宅地化の波にのまれ減じられるかと思われていた農業も、消費者の自然志向の高まりから復活傾向にある。しかし、現実にはその土地の本来の環境（動植物相や土壌）は一様ではなく、科学的に自然を見る眼が常に養成されているとは言い難い。笹刈りや間伐で林が明るくなれば、沢山の花が咲いて自然が豊かになると錯覚している人、周囲が広い森や田畑だった時代の管理方法をひきあいに出し、昔からやられてきた方法が常に正しいと主張する人、自然観察は道楽か難しい学者の領域で、作業の量をこなすことが里山管理だと主張する人がどこかに存在するからである。また、特定の種を誘致するために特定の植物を植えることの是非については意見の分かれるところであり、筆者は極力その場所の植生を育てることに意義を感じている。

蝶は小動物の中では種の判定が容易で、しかも生態がよくわかっている優れた教材である。それらを見る眼を養うことは単なる道楽でなく、昆虫が利用する植物の多い緑地を保全・再生すること、その場所の自然生態系を豊かにすることに繋がると考えられる。

まとめ

2010 年代前半、川崎市麻生区の都市化した地域の小規模緑地において、50 種の蝶類を確認した。同時代の周辺地域の記録を参考にして、それらの構成種と生息環境とのかかわり、緑地管理のありかたについて考察を加えた。

引用文献

- 相模の蝶を語る会, 2011. 創立 25 周年記念「神奈川の蝶・データ集 II」(CD-ROM). 相模の蝶を語る会, 相模原.
- 次田 章, 2015. 2011～2014 年相模原市および東京都南多摩におけるミドリヒョウモンの記録. 相模の記録蝶, (29): 8-13.
- 白水 隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 336 pp. 学習研究社, 東京.
- 丸山充夫, 2015. 横浜栄区のミドリヒョウモン(～2014 年). 相模の記録蝶, (29): 6-7.

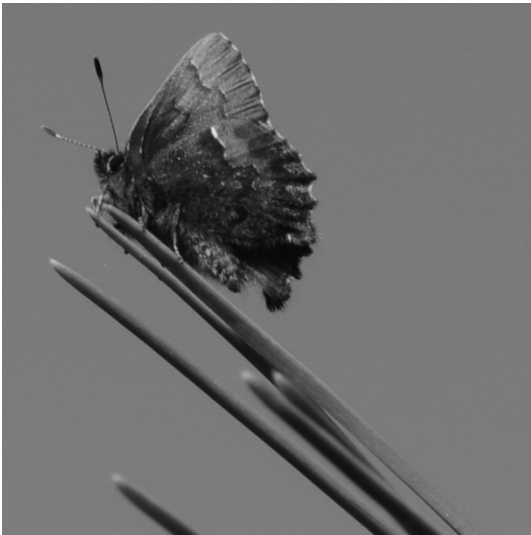


図1) コツバメ.
松の庭木の葉の先端でテリトリーを張る。



図2) ミドリヒョウモン.
伐採跡に咲いたヒヨドリバナで吸蜜中の♀。